

な

ご

み

っ

う

し

ん

発行日：平成 27 年 8 月 24 日（第 8 号）

発行：島田療育センターはちおうじ

「いのちの授業」は、宿題から始まります。自分が生まれたときのことを家族からインタビューし、その内容を原稿用紙 1 枚にまとめてもらいます。そして、それを提出してもらい、授業で紹介します。作文を紹介しましょう。

所長 小沢 浩

僕には、姉が 2 人います。3 番目だという事で、また、女の子だと家族から思われ、あまり期待されていなかったそうです。生まれた時も、病院のタオルがたまたまピンクだったため、父が女の子だと思い込んでいましたが、看護師さんより男の子だと聞かれ、父は 2 番目の姉を抱き上げバンザイを何回もしたそうです。そして、生まれた翌日に、男の子だと言う事で、おじいさん達は、大変喜んで病院に赤ちゃんの手形をとりに来ました。でも、新生児と言うことで、ことわられてしまい、姉達の手形をとって、石盤を作りました。

退院するまでにはおじいさんが、山から一番まっすぐで太い杉を切っていました。僕は、10 月生まれですが、5 月の初節句の為に切ってきてくれました。（1 年男子）



僕がお母さんのおなかの中にいるとき、前置胎盤という状態でもとも出血しやすかったので、産まれる 1 ヶ月前からずっと入院していたそうです。無事に産まれてくるかとずっと心配していたそうです。一度、退院したとき家で破水してしまい、緊急手術で僕が産まれました。お母さんは 1 リットル以上も出血してしまい、血圧も下がったりして産まれた瞬間の事は、意識がもうろうとしていてよく覚えていないようです。でも、分娩室から病室に運ばれる途中、新生児室の保育器の中で元気に動いている僕を見て、とても安心したそうです。体重 3474 グラム。いっしょに入院していた赤ちゃんの中で一番大きかったそうです。

僕には、姉がいます。姉が産まれてから僕が産まれるまでの間に、お母さんは 3 回流産してしまったそうです。この世に産まれてくることができなかった命の分まで僕は一生懸命生きていきたいです。

（1 年男子）

上の姉が「妹がほしい」とのお願い事で兄とは14才、姉とは11才離れて、無事女の子として生まれてきました。夏休み中だったのでずっと私から離れずに、私の様子を育児日記として記録に残してくれました。何時に起きて何時にどのくらいの量のミルクを飲んだのか、何時にねたとか細かく書いてありました。母から聞いた話の中で笑ってしまったことがありました。母が私のおしめを変えているときに、私は母の手の中にうんちをしてしまったらしいのですが、兄がそれを見て、「おしめを取って開放されて気持ち良かったんだよな～。うんちはきたくないから大丈夫だよ。」とあわてている母を横目に、私の顔をなでてくれたそうです。私が笑えばみんなが笑う、私が泣けばみんなが抱っこしてくれる。そんな楽しく幸せな毎日だったそうです。

(1年女子)



わたしが産まれる前日は、大雪だったそうです。産まれる一カ月前頃から愛知にいたそうです。お母さんのおなかが痛くなってから、24時間以上もの長い時間、わたしが生まれるまで時間がかかったそうです。わたしが生まれて、おばあちゃんもおじいちゃんも親せきの人もみんな喜んだそうです。お父さんの話によると、わたしが生まれる前日、静岡から愛知まで行こうとしたが、雪がすごく多く、前に全然進むことができなかった。と言っていました。でも、生まれる瞬間は、間に合ったそうです。そして、体が丈夫で、とても健康だったそうです。私が知らなかったエピソードなどいろいろな聞くことができました。自分が生まれるにあたって、いろんな人がいて、その人たちのおかげで自分が生まれてきたんだ。と思いました。

(1年女子)

(奇跡がくれた宝物 小沢浩著、クリエイツかもがわ より)

